

# シンポジウム 沖縄の自然と人の暮らし ～名護市東海岸を事例に～

日時：2016年7月9日(土) 13:30～17:00  
場所：BC 鶯谷貸し会議室 (JR 鶯谷駅 徒歩3分)  
主催：日本自然保護協会 (NACS-J) 入場料：無料、事前申し込み  
※当日参加もお待ちしていますが、資料用意の都合上、事前にご登録いただけますと幸いです。



米軍基地建設でゆれる沖縄島東海岸。  
ここには、絶滅危惧種であるジュゴンが  
すみ、新種や希少種が数多く発見される  
生物多様性の高いサンゴ礁が広がってい  
ます。

人々も、この多様な環境をうまく利用し、  
暮らしてきました。

今回のシンポジウムでは、人と自然とが  
どのように関わり暮らしてきたのかに焦点  
をあてます。

辺野古の埋め立てが進んだ場合に何が失  
われるのか、私たちはどのように自然と  
付き合いながら暮らしていくべきか、じ  
っくりと考えます。

\*このシンポジウムは公益財団法人自然保護助成基金第26期(2015年度)プロ・ナトゥラ・ファンド助成によって実施しています。

## <スピーカー>

- 辺野古・大浦地域における「場」の多様性の重要性  
～地理学からの視点～ 中井達郎 (国土館大学・地理学)
- 海辺のくらしと自然とのつきあい方 ～沖縄県・嘉陽の住民と変動する海岸～ 保屋野初子 (環境ジャーナリスト・星槎大学)
- ジュゴンの海に抱かれて～大浦湾沿岸地域の暮らしと基地建設～ 浦島悦子 (フリーライター)  
(うらしまえつこ・鹿児島県出身。1990年より沖縄在住。著書『やんばるに暮らす』『シマが揺れる』『みるく世ややがて 沖縄・名護からの発信』など)
- 世界に誇る辺野古・大浦湾の海 安部真理子 (日本自然保護協会)
- パネルディスカッション  
コーディネーター・辻村千尋 (日本自然保護協会)

会場：BC 鶯谷貸し会議室  
台東区根岸 2-1-2 大塚ビル4階

お問合せ・申込先：  
日本自然保護協会 (担当 萩原・辻村)  
umi@nacsj.or.jp 03-3553-4103

